

平成 27 年度 阿賀野市営バスの運行状況

1 現在の公共交通について

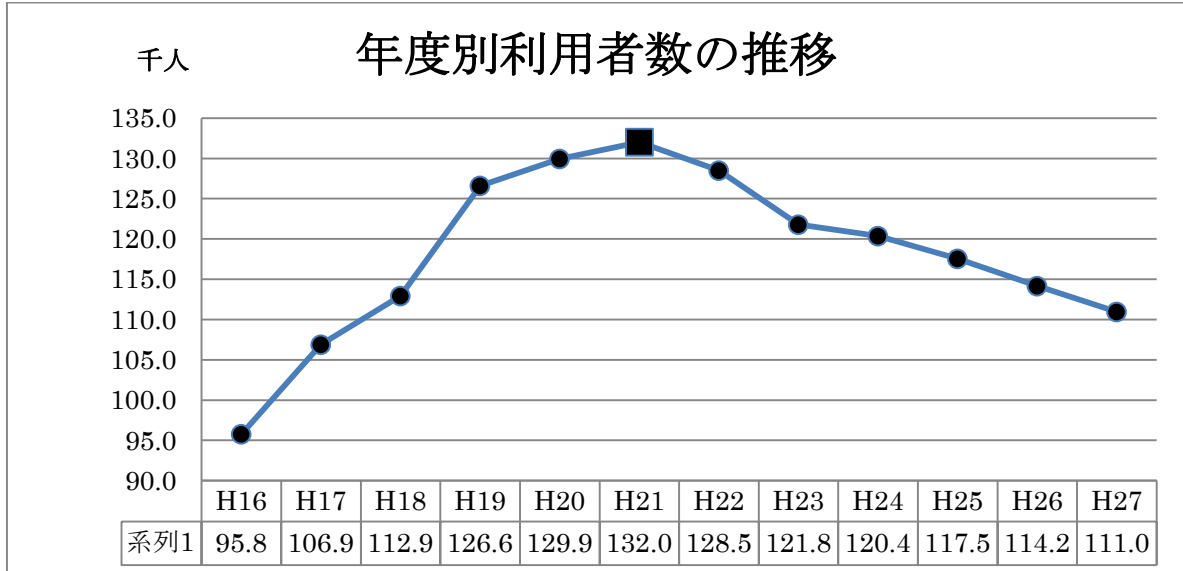
阿賀野市内における公共交通は、市外へ通じる幹線交通である鉄道、民営路線バスを軸に、水原市街地から放射状に広がる阿賀野市営バスを平成16年度から運行し、公共交通網が市内全域に広がっています。



市営バスは11路線運行し、朝夕は主に学生のため、日中は移動の手段を持たない高齢者を中心とした通院や買い物など、生活に必要な交通として機能しております。また、新潟市・新発田市に通じる鉄道駅、新潟へ通じる民営路線バスの幹線交通に対する支線の役割も果たしています。

2 市営バスの利用状況

平成 16 年度の運行開始から増加を続けていた市営バスも、平成 21 年度から固定利用者や学生の減少、高齢者の自家用車運転が増加することにより、徐々に利用者が減少しています。



(平成 27 年度路線別の利用者数)

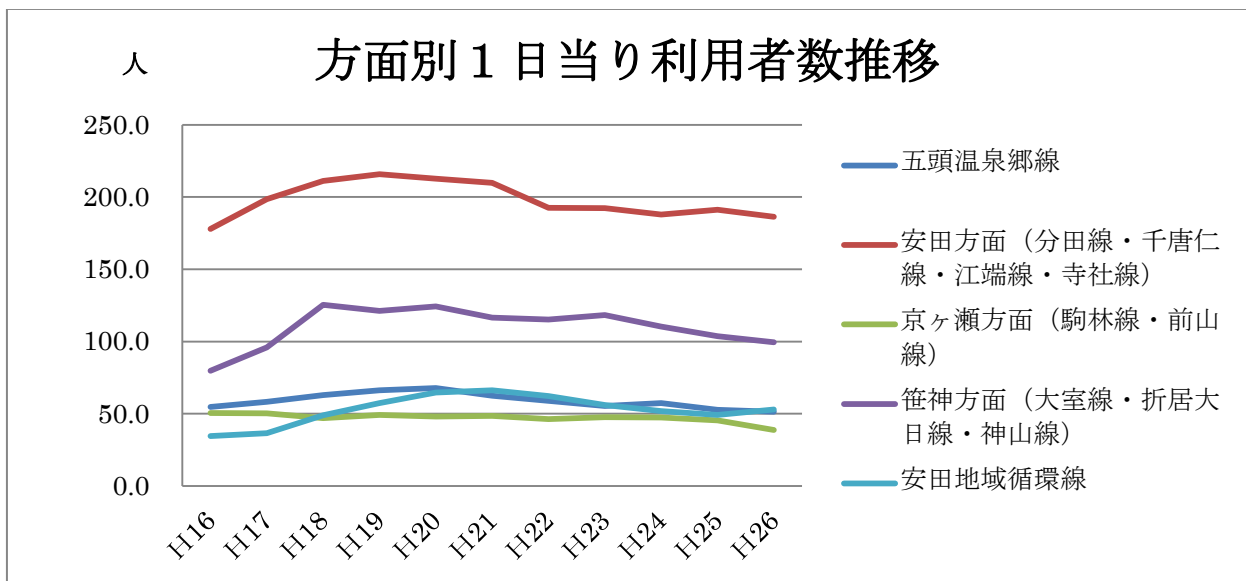
単位：人

系統	路線名	延べ利用者数	1日平均利用者数	対前年度増減
100	五頭温泉郷線	18,254	51.3	-1.5
200	分田線	21,341	88.2	2.9
300	千唐仁線	8,705	36.0	-7.1
350	江端線	8,506	35.1	1.4
400	寺社線	7,825	27.0	-2.0
500	大室線	5,795	23.9	-1.9
600	駒林線	6,422	26.5	-5.4
700	前山線	2,956	12.2	-1.4
800	折居大日線	10,028	41.4	-2.1
900	神山線	8,291	34.3	-0.1
00A/00B	安田地域循環線	12,830	53.0	3.7
	合計	110,953	434.3	-14.4

平成 27 年度の市営バス利用者数は、1日平均 434.3 人となり前年度 448.7 人から 14.4 人減少し、平成 21 年度から連続して前年度を下回る結果となりました。利用を大きく下げている路線は、千唐仁線と駒林線であり、逆に利用を伸ばしている路線は、分田線、江端線及び安田地域循環線となっています。

3 方面別 1 日当り利用者数推移

方面別に 1 日当り利用者数の推移を比較してみると、どの方面もほぼ同じような推移をたどっており、減少傾向は市全体に当てはまるようです。



4 時間帯別 1 日当り利用者数比較 (H21-H27)

平成 21 年度と平成 27 年度の時間帯別 1 日当り利用者数を比較すると、午前 7 時台の減少が著しい。これは、寺社線の小学生の通学利用がスクールバスに切り替わったことによるものと考えられます。なお、この時間帯の高校生の通学利用は分田線、千唐仁線で増加しています。

